

## 第 57 回弘明寺サロン開催記

### サクッと肢体不自由者の余暇外出と自尊感情について

日時：平成 29 年 11 月 11 日（土）13:30~14:30

場所：神奈川学習センター第 6 講義室

講師：高橋知成さん（神奈川同窓会）

参加者 23 名

今回のサロンは、波濤 53 号の「卒業生の言葉欄」に寄稿された高橋知成さんをお招きしました。

高橋さんは平成 28 年度後期に「心理と教育コース」を卒業されましたが、その中で、小川俊樹教授の指導の下、卒業研究にも取り組まれました。今回はその卒業研究の発表です。



テーマをすこし噛み砕くと「肢体不自由者の余暇外出が本人の自尊感情に与える効果の有無、余暇外出に対する態度が自尊感情に与える効果について調査する」ということですが、卒業研究のテーマの仮説（推論）は「余暇外出に対する態度や、かけた時間は自尊感情を左右するのではないか」と想定し、最終的には「余暇活動や外出はメンタルヘルスを向上させ、自尊感情はメンタルヘルスの向上の要因となるのではないか」を検証するものでした。

高橋さんが使用している専門用語を整理しました。

- ① 余暇外出の概念：外出には多様な目的があるが、余暇外出とは QOL、特にメンタルヘルスと関係のある余暇活動を目的とした外出。
- ② 自尊感情：自分自身に自分自身が尊厳のある、または価値のある存在として感じること。  
データとしてのサンプルについて触れておきます。  
肢体不自由については細かく分類されますが、サンプルの抽出に当たり、高橋さんは 2 つの前提を設けています。①車いすを使用している人、②重複障害でない方

この条件のもとに、横浜の障害者団体の協力で 22 人のサンプルを収集していました。

次に調査方法ですが、調査の目的に従い、①余暇外出の実態と態度を測る項目、②自尊感情を測る項目(ローゼンバーグの自尊感情尺度日本語版を使用)について、データを集め、心理学の統計手法、ここではピアソンの積率相関係数を使用しました。

分析の結果は

① 余暇平均外出時間と自尊感情の係数値  $r=0.561$

② 余暇外出に対する態度と自尊感情の係数値  $r=0.750$

という数値で高橋さんの考察は余暇外出時間と自尊感情にはやや関係がある、余暇外出態度と自尊感情は大いに関係があるという結論でした。



### 講演の感想

私は今回のサロンの担当者として、高橋さんの卒業研究全文をいただき、読ませていただきました。時間の関係で省略された中に、障害受容と自尊感情についてライト(1960)の概念「いつまでも失った価値にこだわることなく、失われた機能や他者の比較によって自らの価値を過小評価することなく、身体的な価値にとらわれず、それを超越した新しい独自の価値を求め、認めることである」が引用されておりましたが、高橋さんは「要するに障害者が自らの障害を自らのものとして受け入れそれを価値あるものとする」と明快に表現されていたことに感銘を受けました。

講演の後の質疑で、高橋さんが今回の調査対象者以上のハンデを持ちながら、就業していること、外出時間も今回の平均余暇外出時間を上回っていることをお聞きし、現実をしっかりと受け止め、メンタルヘルスのコントロールをされていると推察いたしました。

卒業研究の口頭試問の際でしょうか、審査された先生から、本卒業研究の学術的な価値を評価されたとのことですが、心理学には門外漢の私ですが、大変な労作であると思いました。

(高橋照夫・記)